

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 総合科学部門

職階 准教授

氏名 委文 光太郎

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医学部の両学科と生命・環境科学部の臨床検査技術学科ではリーディングの授業を担当しています。また、食品生命科学科と大学院では、前期にリーディング、後期にライティングの授業を実施しています。詳細は以下の通りです。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
基礎科学英語	獣医学科	必修	1	34
基礎科学英語	動物応用科学科	必修	1	35
基礎科学英語	臨床検査技術学科	必修	1	30
英語講読	獣医学科	必修	1	14
英語講読Ⅰ	動物応用科学科	必修	1	30
英語講読	食品生命科学科	必修	2	19
ライティング基礎	食品生命科学科	必修	2	19
英語特別演習	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	35

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

英語の語学力は社会人に求められる重要なスキルのひとつであるという言葉をよく耳にしますが、実社会の中で英語を使用する機会はかなり限定されているように思われます。にもかかわらず、就職や大学院進学の際に英語の語学力が求められることがあるのも紛れもない事実です。これまで教員として働く中で、単に英語が苦手という理由だけで、入りたかった企業への就職や希望する大学院への進学が叶わなかった学生さんを実際に目の当たりにしてきました。学生の皆さんには英語が自分の夢の実現への足枷とならないように、少しでもそれを後押しする力となるように、（卒業研究を行う際にも英語は必要になるので）1年次から2年次の間にしっかり英語と向き合って、運用能力を高めてほしいと願っています。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

上に述べた理念の実現のために、担当する授業で最も重視しているのが「予習」です。予習をせずに英語の力を伸ばすことはできないと私は考えています。確かに、予習をせずに試験前に難しい英文の日本語訳などをひたすら暗記して、テストで高得点を取ることも不可能ではありません。しかしそのようなやり方では、単語の知識は身につくかもしれませんが、読む力や書く力の向上は期待できません。そのため、授業では1人でも多くの学生さんに予習をしてもらえるように、2年前から複数の科目で予習テストを導入し、成績の一部として積極的に評価するようにしました。

また、予習を促すために教材選びも大切にしています。学生の皆さんは英語以外にもたくさんの授業を履修しているので、英語に多くの時間を割くことは当然できません。さらに、英語の学習に対して高いモチベーションを維持することもそう簡単なことではありません。そのため、少しでも読んでみたくなるような各学科の専門分野に則した興味深い内容の英文を選んで（時にはアンケートを取って希望を聞きながら）、予習した上で授業に臨むようお願いしています。さらに配布資料に余白があれば、学習意欲を高める一助として、英文内容に関連するイラストや写真などもできるだけ取り入れるように心掛けています。

最後に、授業内で英文を和訳してもらうなどの際には、たとえ間違った答えであっても、必ず肯定的なコメントを返すようにしています。英語にも得意・不得意がありますし、何よりも頑張っただけ予習してきたことを評価することで、次の予習に対するモチベーションも上がるように思うからです。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

授業の予習課題として指定した英文を事前に読んできてもらい、授業中は、その英文の要約文をベースとした自作の空所補充問題や語彙問題を配布して、制限時間内に解いてもらいました。

(2) ICTの教育活用

有

授業内容の理解を深めてもらうため、各トピックに関連するYouTubeやTED Talksなどの動画を効果的に活用しました。また定期試験の英作文対策として、スマートフォンでも使用できるおすすめ英作文アプリを紹介して授業中に試してもらったり、英文の添削がいつでも行えるようにChatGPT用のプロンプトを作成して配布するなどして、授業外での自立的な学習を促しました。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

単調な授業にならないように、映像やクイズなどを積極的に取り入れました。

(2) 学生の理解度の把握

A

授業開始時に毎回予習テストを実施して、学生さんたちが、どのくらいの準備をして授業に臨んでいるのかを把握するように努めました。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

先ほど述べた英作文のアプリやChatGPTのほかに、授業の冒頭で毎回予習テストを実施することで、学生さんたちの自学自習を促しました。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

授業後に質問等があった場合は、丁寧に答えるように努めました。また、定期試験に関する質問があった場合は、クラス全員にその情報が共有できるように、学理やAzaMoodleのお知らせの欄に、Q & A の形ですべての質問とその回答を掲示しました。

(5) 双方向授業への工夫

B

一部の科目ですが、指名して答えてもらい、それにコメントを返すという形の授業を実施しました。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

「説明に時間をかけ過ぎている」という意見が一部にありましたので、説明をコンパクトにして、問題を解いてもらう時間を新たに設けました。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

予習を怠ると問題も解けないので、いかに予習をしてきてもらうかが課題だと感じています。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

次年度も予習テストを実施することで、事前学習を促したいと考えています。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

授業の冒頭で毎回予習テストを実施し、事前学習の習慣を定着させることで、成績向上を目指しています。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

「予習テストがあるので予習を頑張れた」という意見が授業評価アンケートの中に複数見られました。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

録画の視聴も含め、ほとんどのFD研修に参加しています。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

TOEICなどの資格試験対策を積極的に授業に取り入れて、学生さんたちが具体的な目標を持って英語を学習できるようにしたいと考えています。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

授業評価アンケートの結果